

姉妹・友好都市交流

Exchanges with Sister and Friendship Cities

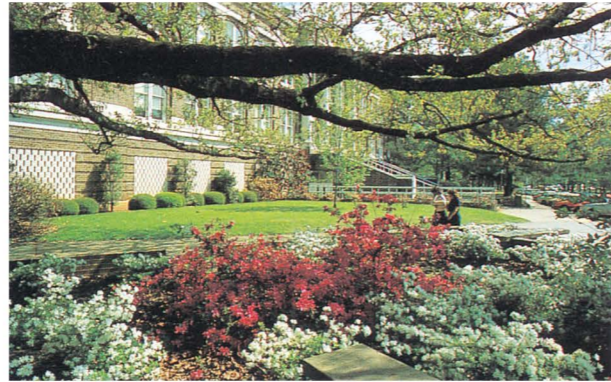
姉妹都市

Sister City Nacogdoches

アメリカ テキサス州 ナカドウチェス市

ナカドウチェス市と旧名瀬市は、ステファン・F・オースティン大学と奄美看護福祉専門学校が姉妹校盟約を結ぶのを契機に、両市民が教育・文化・経済等幅広い分野の交流を深めるため、平成7年4月26日に姉妹都市盟約を締結しました。平成17年4月には、市町村合併後の奄美市においても姉妹都市盟約を継続する調印を交わし、現在に至っています。現在、中学生のホームステイ派遣や受け入れなど、教育・文化面での交流が継続して行われており、本市の国際化へ大きく貢献しています。

After Stephen F. Austin University and Amami Medical College signed a sister school agreement, Nacogdoches city and our city signed a sister city agreement on April 26, 1994, to promote exchange in a wide range of fields including education, culture and economy. Amami City sends Japanese junior high school students to Nacogdoches and receives American students in homestays here. This exchange, along with a photograph swap, greatly contributes to the internationalization of our city.



友好都市

Friendship City

兵庫県 西宮市 Friendship City Nishinomiya



兵庫県立芸術文化センターのライトアップ

西宮市と旧名瀬市の交流は、故菊地武正医師たちが医療過疎に悩む奄美の島々を昭和30年から10年余にわたって巡回し、診療奉仕活動を行ったのがきっかけになっています。その後、中学生の交歓行事などで友好機運が高まり、昭和56年10月31日、友好都市提携調印を行いました。奄美市誕生後の平成18年8月に、新市として友好都市提携調印を行い、現在に至っています。

同市には奄美出身者が多く、以前から本市とかかわりの深いところです。近年は、西宮市民まつりや奄美まつりでの交流など、イベントを中心とした交流が進められています。

Exchange between Nishinomiya and Naze started when the late Dr. Takemasa Kikuchi and others volunteered to provide medical assistance throughout the Amami Islands, which were suffering a doctor shortage for over a decade after 1955. As friendly sentiment increased between the cities via junior high school student exchanges, the two cities first signed a Friend City agreement on October 31, 1981. In August 2006, the two cities signed an agreement (in effect to this day) to continue the Friendship City relationship even after the formation of the new Amami City.

〈空港で結ぶ友好都市連携に関する協定〉大阪府 豊中市 Friendship City Toyonaka

大阪国際空港の行政区域の一つである豊中市は空港と地域の活性化を目的に、大阪国際空港から就航している29空港国内34都市と相互発展を図る取り組みを進めています。

関西には奄美出身者も多く、大阪国際空港は便利で昔から馴染みも深いことから、観光PRや物産展開催等の相互交流は両市にとって大きなメリットになるため、平成24年2月6日に「空港で結ぶ友好都市連携に関する協定」を締結しました。締結の内容は、1. スポーツ・文化等の相互交流、2. 産業・観光振興に関する相互協力、3. 災害時の相互応援、4. その他空港を活かしたまちづくりに関する事業、となっています。この協定の締結を通して、両市民の相互交流による地域活性化・産業振興が期待されています。

Toyonaka City, Osaka: Cooperation Pact for Friendship Cities Sharing Air Routes
Toyonaka City, an administrative district of Osaka International Airport, is working to promote mutual development with 29 airports in 34 cities to which it is connected by air and revitalize airports and regional areas. Many people originally from Amami live in the Kansai area. This familiarity and the convenience of Osaka International Airport prompted the cities to sign a Cooperation Pact for Friendship Cities Sharing Air Routes on February 6, 2012, designed to deepen exchange through tourism and product exhibitions. City development that utilizes the airport to promote exchange via sports, culture, product and tourism development, and mutual aid in the event of a natural disaster is expected to contribute to regional and industrial revitalization.

と港で結ぶ友好都市提携に関する協定締結式



交流事業

Exchange Program

長野県小川村との交流

平成10年から小学6年生を対象に奄美市住用町(旧住用村)と長野県小川村の交流が始まりました。自然や生活環境の異なる地域で体験交流を通して、生活様式・習慣・文化等の違いや良さを見直し、相互のまちの発展を担う青少年を育成することを目的に行われています。



Ogawa village, Nagano Prefecture

群馬県みなかみ町との交流

群馬県みなかみ町と旧笠利町は、平成13年度から青少年の交流事業を行っています。夏の時期には、みなかみ町の小学生を受け入れ、冬の時期には、笠利町の小学生を派遣して、相互の青少年の育成に貢献しています。



Minakami village, Gunma Prefecture

平成26年から、成田空港とのつながりで千葉県の成田市、芝山町との交流も始まっています。

奄美市ゆかりの人々

People connected with Amami City



なごやさげんた
名越左源太(1819~1881)鹿児島出身

薩摩藩の上級藩士で武術や和歌、絵、医術などに長けていたが、藩の世継ぎ問題(お由良騒動)で、1850年~1855年まで名瀬に遠島になった。このとき、奄美各地で見聞した奄美の風俗や産業、動植物などを絵入りで描き綴ったのが「南島雑話」で、奄美民俗書のバイブルといわれている。(奄美博物館所蔵)



まるた なんり
丸田南里(1851~1886)奄美大島出身

黒糖自由販売運動の先駆者。英国商人グラバーとともに渡英し、明治政府になってから帰国。新政府になっても藩政時代の専売制度を踏襲する大島商社の搾取に憤り、明治8年から全島民によびかけ、大島商社の解体と砂糖自由販売運動を提唱し、11年に実現させた。奄美市名瀬井根町に墓碑がある。

もとじしんぐま
泉二新熊(1876~1947)奄美大島出身



日本法曹界の先駆者といわれる裁判官、刑法学者。東京帝国大学卒業後、裁判所検事、司法省などをつとめながら「改正日本刑法論」、「刑法学大要」などを出版。少年犯罪や陪審員制度の研究を続け、「少年法」制定に尽力した。検事総長、大審院長、退官後は枢密院顧問官を歴任した。刑法学者としても著名で、その刑法学は「泉二刑法」と呼ばれ、広く世に知られた。

かざり えいきち
文 英吉(1890~1957)奄美大島出身



ジャーナリスト、民俗研究家。奄美大島日本復帰協議会副議長。幼少のころから読書が好き、奄美郷土芸能に興味をもつ。「南島時報」の編集長となり、「新大島」や雑誌「南島」を創刊するなど執筆活動を展開。また、奄美の芸能研究に取り組み、「奄美民謡大観」を出版。米軍政府下には奄美図書館長などを務め、奄美群島日本復帰にも貢献した。



いずみ ほうろう
泉 芳朗(1905~1959)徳之島出身

奄美群島の日本復帰に尽力した指導者で、復帰の父ともいわれる。戦後、奄美群島は8年間米軍政府統治下におかれたが、祖国復帰を果たすため、泉らは、断食などの非暴力で抵抗。また全群島民の99.8%の署名を集めるなどをした結果、1953年12月25日に、奄美群島の復帰が成就した。奄美市のおがみ山には、断食悲願詩碑と記念碑が建立されている。



えばら よしもり
恵原義盛(1905~1988)奄美大島出身

奄美の民俗研究家。ケンムン博士。上京後、貯金局に勤務しながら東京物理学校に学ぶ、台湾で金鉱試掘業に従事するとともに、南洋および琉球弧の民俗学を志すようになる。その後、法務省で勉学し、刑務所長として全国を回る。大島刑務所長として帰郷後、奄美の心と生活の記録を続け、「奄美生活誌」や「奄美のケンムン」など多くの著作を発表した。

たなか いっそん
田中一村(1908~1977)栃木県出身

日本画家。幼少のころから天才的な才能を発揮していたが、独学で画境を開き、50歳のとき奄美に移住。奄美の動植物を精密な写生と大胆な構図で描いた。没後、その画業がテレビで放映され、全国で大反響をよび、作品展が全国を巡回、記録的な入場者数となる。奄美パーク内に、田中一村記念美術館が建造され、作品が常設されている。



田中一村記念美術館

しまおとしお
島尾敏雄(1917~1986)福島県出身

純文学作家。日本芸術院会員。昭和19年、特攻艇第18震洋隊長として、加計呂麻島に赴任、後に妻となるミホと出会う。昭和20年8月13日、出撃命令を受けながら、待機のまま敗戦。これらの経験が彼の文学の原点となった。ミホとともに昭和30年~50年まで名瀬で暮らして、県立図書館分館長の傍ら、「死の棘」など数多くの文学作品を書いた。同敷地跡に、文学碑が建立されている。

